

# 貯蓄型医療保険と掛捨て型医療保険の比較

	プラン1 メディカルKit R	プラン2 メディカルKit NEO + 積立貯蓄	
毎月の費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>月額保険料 <b>3019円</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディカルKit NEO 1409円</li> <li>積立貯蓄 1610円 (合計<b>3019円</b>)</li> </ul>	毎月のコストは同じ
70歳までに保険給付なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>還付金 <b>139.4万円</b></li> <li>70歳以降の保険料 <b>3019円</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積立貯蓄(毎月1610円×40年) 77.3万円(利回り0%) <b>138.8万円(利回り2.7%)</b> <b>168.2万円(利回り3.5%)</b></li> <li>70歳以降の保険料 <b>1409円</b></li> </ul>	保険屋さんの好きな外貨運用で達成可能な利回り つみたてNISA、iDeCoを活用してもOK
70歳までに30万円の保険給付	<ul style="list-style-type: none"> <li>還付金 <b>109.4万円</b></li> <li>70歳以降の保険料 <b>3019円</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>積立貯蓄 77.3万円(利回り0%) <b>138.8万円(利回り2.7%)</b> <b>168.2万円(利回り3.5%)</b></li> <li>70歳以降の保険料 <b>1409円</b></li> </ul>	70歳以降の保険料の差(毎月1610円)は15年で、 29万円(利回り0%) 36万円(利回り3%)
			保険給付を受けると、その分還付金は減額されてしまう
			70歳以降の保険料の差(毎月1610円)は15年で、 29万円(利回り0%) 36万円(利回り3%)

<保障内容> 入院給付金日額5000円タイプ  
 保険期間: 終身 保険料払込期間: 終身  
 健康還付給付金のお受け取り年齢: 70歳  
 先進医療特約付加(先進医療特約の保険期間・保険料払込期間は10年)

# 貯蓄型医療保険のセールスポイントを検証(1)

## セールスポイント①

払い込んだ保険料の使わなかった分を**リターン**

入院給付金等のお受け取りがない場合は、**全額**が戻ってきます。

入院給付金等のお受け取りがあった場合は、**差額**が戻ってきます。



## 検証

- ✓ 70歳まで保険給付を受けなかった場合の還付金は、前ページのプラン2における利回り2.7%の積立貯蓄と同等。
- ✓ 保険給付を受けると還付金が減額されてしまい、プラン2の積立貯蓄に対する優位性が無くなる。
- ✓ 70歳以降も保障を継続する場合には、プラン1 (KitR) の方が保険料の負担が大きくなる。

# 貯蓄型医療保険のセールスポイントを検証(2)

## セールスポイント②

入院する確率が高まる時期に**加入時のお手ごろな保険料のまま**医療保障を継続できます。

### 30歳でメディカルKit Rに加入した場合

▼ 30歳でメディカルKit Rに加入 ▼ 70歳



入院給付金等のお受取りがない場合の健康還付給付金額  
1,394,400円 (2,905円×12か月×40年)。

### 70歳で従来の当社医療保険(メディカルKit NEO)に加入した場合

▼ 70歳



健康であれば、70歳で保険に加入することもできますが、70歳までの保障がなく、毎月の保険料はメディカルKit Rよりも高くなります。

性別: 男性 / 入院給付金日額: 5,000円 / 保険期間・保険料払込期間: 終身(口座振替扱) / 健康還付給付金受取年齢: 70歳

## 検証

- ✓ 商品説明では、70歳から掛捨ての保険(メディカルKitNEO)に加入する場合の保険料を比較しているが、これはナンセンス。
- ✓ 当然30歳から掛捨ての保険に加入していれば、その方が安く、70歳以降の保険料負担を抑えることができる。
- ✓ そもそも、還付金ありと同額の保険料を、還付金の無い70歳以降も支払い続けることがおかしいと思わないのか。

## まとめ

- ✓ プラン1(メディカルKitR)は、還付金を受け取った後も保障を継続する場合は、プラン2(メディカルKitNEO)より高い保険料を払わなければならない。
- ✓ プラン2で示した通り、30歳から70歳までの間、メディカルKitRとメディカルKitNEOの保険料の差額を積み立てていけば、利回り2.7%でメディカルKitRの還付金と同等の額を作ることができる。利回りの2.7%は、40年の長期をかければ、外貨運用やつみたてNISA/iDeCoを活用して十分達成可能。
- ✓ 70歳までに入院等で保険給付を受け取ると、その分還付金は減額されるので、プラン2の積立貯蓄の優位性が高まる。
- ✓ 結局、**メディカルKitRが有利になる可能性があるのは、70歳まで健康で保険給付を受けることなく、70歳以降は解約するケースのみである。**一方、セールスポイントでは70歳以降の医療保障の必要性を訴えており、矛盾していると言わざるを得ない。
- ✓ メディカルKitNEOではなく、メディカルKitRを選ぶ経済的合理性は無いが、プラン2で示したようなメディカルKitNEOと積立貯蓄を実行する手間が面倒くさいと考えるなら、メディカルKitRを選択する余地もあるだろう。